令和５年度 公共事業 事後評価

平成29年度完了

道路環境対策（雪寒対策道路）事業

主要地方道　扇沢大町線
第２ポイント上スノーシェッド

大町市

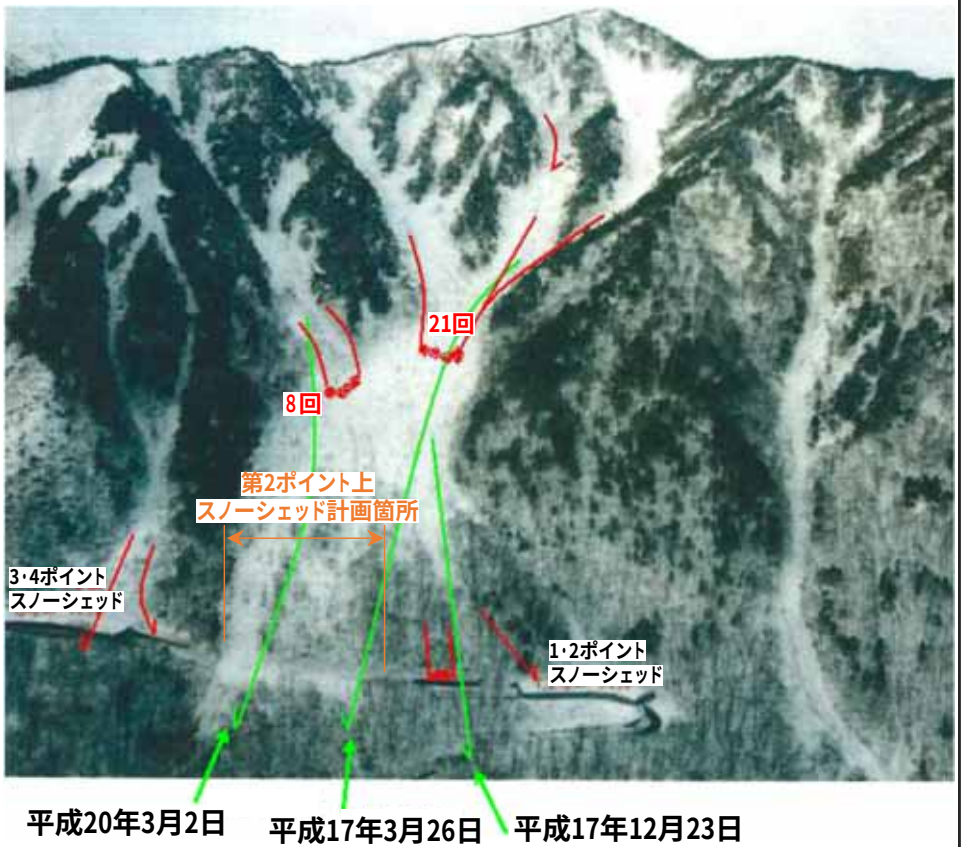
長野県　建設部

事業の概要

事業計画時の課題・背景及び事業経緯

- 主要地方道　扇沢大町線は、立山黒部アルペンルートの長野県側駅である扇沢駅と大町市街地を結ぶ観光道路である
- 当路線の山間部は12月1日から翌年4月中旬まで積雪による冬期閉鎖を実施しているが、黒部ダムの管理のため関係者らに対し特別に冬期間の通行を許可しており、冬期閉鎖中もほぼ毎日車両の往来がある
- しかし、扇沢駅下のヘアピンカーブ周辺は雪崩の常襲地帯であり、1978年（昭和53年）には乗用車3台が巻き込まれる大雪崩が発生し、そのうちの1名が犠牲となった
- これにより、地元及び道路利用者からは雪崩対策施設建設の要望が一段と強まり、1980年代後半からヘアピンカーブ周辺のスノーシェッド建設を順次進めてきた
- 最後まで無対策で残っていた当該箇所については平成20年度に事業着手した

【事業実施前の状況】



事業目的

道路に屋根を設け、発生した雪崩から通行空間を防護するスノーシェッドの整備により、安全で円滑な交通を確保することを目的とした事業である

事業の概要

【位置図】

【平面図】

【全体計画】

延長　　：　140m

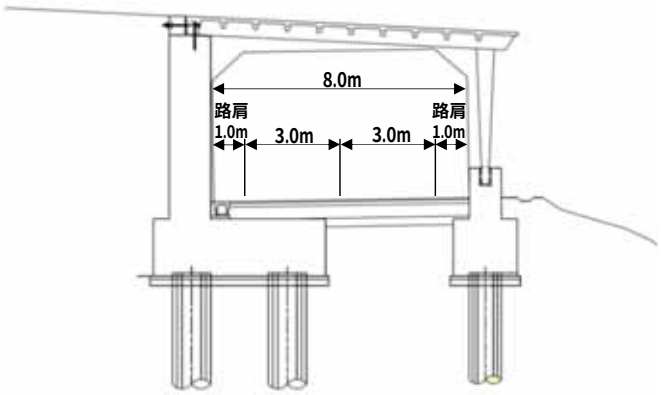
幅員　　：　（全幅）8.0m

　　（車道）6.0m

事業期間　：　平成20年度～平成29年度

全体事業費：　6億4,000万円

【標準横断図】



【事業完了後の道路状況】

事業概要の変更経緯

事業概要の変更経緯

	当初計画 （H20年事業着手時）		**最終実績** （H29完了時）
事　業　期　間	H20～H25年度		H20～H29年度
総　事　業　費	2億6,000万円		6億4,000万円
費 用 対 効 果	―		―
事　業　概　要	雪崩防護擁壁工 延長　210m 幅員　(全幅) 8.0m (車道) 6.0m		スノーシェッド工 延長　140m 幅員　(全幅) 8.0m (車道) 6.0m

変更理由（総事業費の増、事業期間の延長）

- ◆ 対策工法について、当初計画では「雪崩防護擁壁工」を予定していたが、事業着手直前の平成20年３月に当該箇所で発生した大規模な雪崩を検証し計画を再検討をした結果、「雪崩防護擁壁工」は同規模な雪崩に対しては、保全対象である道路への雪崩の流出の恐れが大きいと考えられたため、複数回の雪崩に対応でき、より安全性の高い「スノーシェッド」に変更となった
- ◆ 対策工法が変更となったこと、またそれに伴い工事中の交通規制方法の再検討を行ったところ、車両通行を確保しながらの施工を行うため、作業の一部を夜間施工とする必要が生じ、作業工程に時間を要したことから、事業期間が延長となった

①－１　事業効果の発現状況（直接効果）

安全性の向上　● 雪崩発生に伴う通行止めがなくなり、防災面での信頼性向上

※雪崩がスノーシェッドの上部を
通過し、道路への流出はなし

雪崩の発生状況（平成20年3月2日発生）

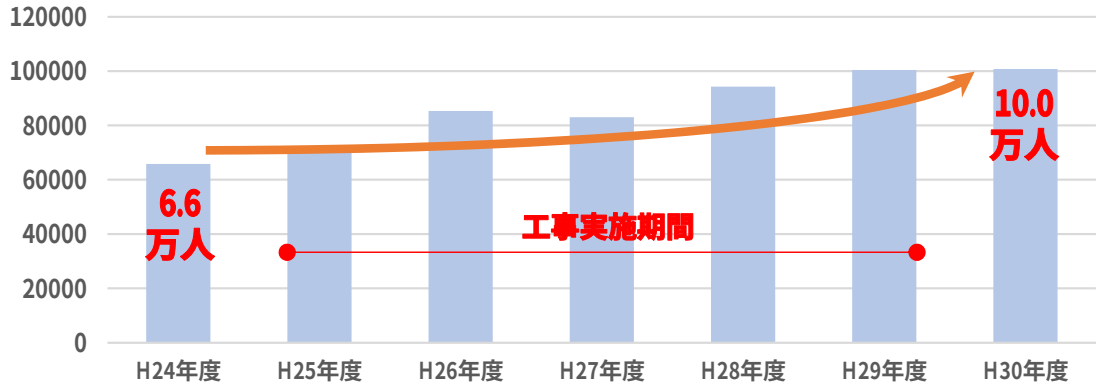
雪崩の発生状況（平成30年3月13日発生）

①－２　事業効果の発現状況（間接的効果）

観光振興に寄与

- 雪崩発生の危険が伴う4月中でも立山黒部アルペンルートに多くの観光客が訪れ、平成30年度の利用者数は約10万人に増加
- 雪崩の道路への流出が防止され、観光客が安全に通行でき、観光振興に寄与

【関電トンネル　トロリーバス利用者数（4月）】



②　事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化

- 現地で実現可能な雪崩対策工のうち、環境への負荷が最も少ない工法（スノーシェッド）を選定している
- スノーシェッド設置にあたっては、掘削など土地の改変を行ったものの、スノーシェッドと山側斜面の埋戻し部に植生工を施工し、環境負荷を低減している
- 冬季閉鎖解除後も雪崩発生による事故のリスクは無くなり、交通環境が大幅に改善された

スノーシェッドと山側斜面の緑化対策

完成直後（天井部）

令和5年4月中旬撮影（天井部）

現在の様子（終点側）

③　施設の維持管理状況

- 日常点検として、大町建設事務所職員が道路パトロールを毎週１回実施し、路面の段差やひび割れ、屋根からの漏水、つららや側氷などによって交通への支障が生じていないかを確認している。
- また、法定点検として５年に１度シェッドの全線に対して近接目視による点検を行い、必要に応じて打音検査を併用して、変状の進行や新たな変状の早期発見に努めている。
- 上記のほか台風、集中豪雨、豪雪、地震等の自然災害発生時は、必要に応じて臨時点検も実施している。

道路パトロール

高所作業車による近接目視実施状況（定期点検）

④　地域住民等の評価

- 例年４月中旬に行われる県道扇沢大町線の冬期閉鎖解除から５月上旬までは、山にも積雪が多く、気温が高い日や雨が降っている日などは雪崩の心配があり恐る恐る運転していたが、今はその心配もなくなり、安心して運転できるようになった。（扇沢駅関係者）

- 中抜けとなっていた今回の区間にスノーシェッドができたことで、冬期閉鎖解除後で周りに雪が残っている期間でも安心して通れるようになった。（路線バス運転手）

- 現場は雪崩の危険があった場所であったため、スノーシェッドの完成により現在は安心して通行できている。（一般通行者）

観光関係車両の通行状況

雪崩発生直後の除雪実施状況（平成20年３月撮影）

事後評価結果

総合評価

評価項目	評価	評点	評価指標
① 事業効果の発現状況（直接的効果、間接的効果）	A	70点	A：目的を超えた達成【70点】 B：目的を達成　【55点】 C：目的を概ね達成　【40点】
② 事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	A	10点	A：計画時よりも環境がよくなった【10点】 B：大きな影響なし　【5点】 C：影響が大きい　【0点】
③ 施設の維持管理状況	B	5点	A：地域の人たちも参加し適切に実施【10点】 B：施設管理者が適切に実施【5点】 C：やや不十分【0点】　D：不適切　【0点】
④ 地域住民等の評価	A	10点	A：評価が高い【10点】　B：中程度の評価【5点】 C：評価が低い【0点】
総合評価	**A**	**95点**	**A：75点以上　B：74点～50点 C：49点以下**

改善措置の必要性

特になし

今後の取組及び同種事業への活用と課題

当該路線は大北地域随一の観光道路であるが、観光シーズンと工事施工可能時期が重複するため、工事に伴う通行規制を理解してもらうことに苦労した。
今後の取組として、事業の目的や効果を積極的に広報していくことで、工事に対する理解を得られるよう努めていく必要がある。

事後評価結果

【建設部公共事業評価委員会の意見】

スノーシェッドの整備により、雪崩発生による事故のリスクが低減され防災面での信頼性が向上するとともに、観光客が安全に通行できるようになった。また、冬期間においても黒部ダム関係者が安全に通行でき、発電施設の安全管理に寄与している。これらを踏まえ、事業の目的を達成していることから、総合評価Ａが妥当と判断する。

【長野県公共事業評価委員会の意見】

建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。

県の評価案	A	**評価監視委員会意見**	妥当	**評価の決定**	A